

資料室だより 32

バッハの「マルコ受難曲、BWV 247」

ベーレンライター社からバッハの「マルコ受難曲」のピアノ・ヴォーカルスコアが出版されました。一般的にはマタイ受難曲とヨハネ受難曲しか認識されていませんが、Nekrolog—故人略伝（エマヌエル・バッハと弟子のアグリコラが共同で編纂した）によるとバッハは5曲の受難曲を残した、とあります。4つの福音書に基づく4曲と「ヴァイマル受難曲」で、マタイ、ヨハネ以外の作品はいわゆる「確認消失作品」です。

今回受け入れたマルコ受難曲は、1731年の聖金曜日にライプツィヒのトーマス教会で初演されたことがわかっています。作詞はマタイと同じくピカンダーで、テキストは全曲分残っていますが、スコアはおそらく長男フリーデマン・バッハの手によりライプツィヒの出版社、ヨハン・ブライトコプフに売却されたようです。1764年の同社のカタログに作者不詳の”Passions-Cantate secundum Marcum”があり、そこに示されている歌いだしの言葉“Geh Jesu, geh zu deiner Pein”がピカンダーの台本と一致するからです。

ともあれこのような経緯のあと、初演時の楽譜はすべて失われてしまいましたが、ザクセン選帝候妃クリスティアーネ・エーバーハルディーネのための追悼カンタータ「候妃よ、さらに一条の光を」（BWV 198）の転用が全体の骨格となっていたとの推測から、バッハ研究者たちの情熱によって Rekonstruktion（復元）されたわけです。

杉本ゆり 記